

富山・水橋荒町遺跡

みずはしあらまち

1 所在地 富山市水橋辻ヶ堂

2 調査期間 一九九二年(平4) 四月～十一月

3 発掘機関 富山市教育委員会

4 調査担当者 小林高範

5 遺跡の種類 集落跡・官衙跡か

6 遺跡の年代 縄文時代中期～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

水橋荒町遺跡は、市街地から北東約一〇km、常願寺川右岸の河口付近に位置する。川に挟まれた扇状地の末端部にあたり、海にほど



(魚津)

近く、標高は約二mを測る。

調査は、下水処理場建設に伴い、一九九一年から一九九三年まで実施した。

調査の結果、遺跡は縄文時代中期から近世の各時代

にわたる大規模な複合遺跡であることが判明した。中

でも主体となるのは奈良～

平安時代で、掘立柱建物、河川、井戸枠など検出遺構の多くは当該

期に属する。掘立柱建物の配置に強い計画性が窺われる。

遺物は整理用コンテナ三五〇箱ほど出土した。須恵器・土師器・

土鍾・鋳型・羽口・瓦とともに、木柱・井戸枠など木製品の遺存状

態も良好だった。墨書土器は数点あり、杯蓋の外側に「竈神」と記

したものの以外は判読不能である。また、試掘調査の際に石製鈐帯が

一点出土した。

木簡は、一九九二年の調査で一点出土したが、包含層中からであ

り、遺構には伴っていない。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「二斗八升□□右衛門」

122×20×2 0.61

貢納した品物(穀物か)の分量と人名が書かれた付札である。

上部は平らに切断されており、先端は鋭く加工されている。書体などから中世から近世のものと推測される。

(小林高範)

